



関空島

WEATHER REPORT

1 月号
2023 年

ご利用の前に
かんくうじまウェザーレポート
関空島 WEATHER REPORT の内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでています。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の 12 月の気象

天気概況

数日の周期で低気圧や気圧の谷が通過した後は冬型の気圧配置となりました。全般的には晴れの日が多くなりましたが、雨や雪の降る日がありました。

上旬：高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、期間の中頃には低気圧の影響で雨の降る日がありました。

中旬：数日の周期で低気圧や気圧の谷が通過した後は冬型の気圧配置となりました。晴れの日が多くなりましたが、雨や雪の降る日がありました。

下旬：期間の前半に低気圧が通過した後は冬型の気圧配置となりました。晴れの日が多くなりましたが、気圧の谷や低気圧の影響で雨や雪となった日がありました。

特徴的な日

13 日は日本海北部を東進する低気圧からのびる寒冷前線の影響で雨が降り、VIS が 4000m まで悪化し、CIG が 1200ft まで低下しました。

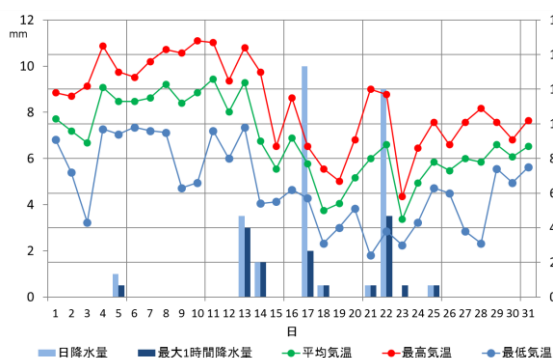
14 日は冬型の気圧配置が強まり、最大風速 31kt の西の風、最大瞬間風速 42kt の西北西の風を観測しました。

17 日は日本の南海上を東進する低気圧の影響で雨が降り、CIG が 1200ft まで低下しました。

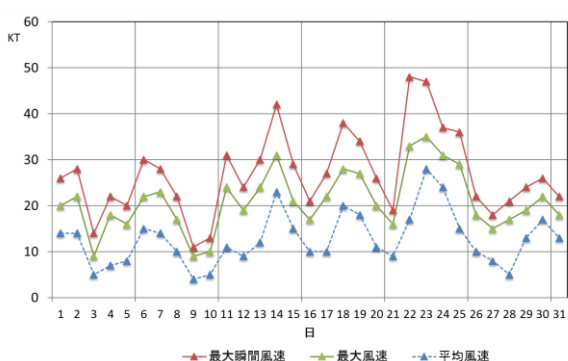
22 日から 23 日にかけては低気圧や気圧の谷が通過し、その後は強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まりました。22 日は VIS が 3000m まで悪化、CIG は 500ft まで低下し、最大風速 33kt の西の風、最大瞬間風速 48kt の西の風を観測しました。また、大気の状態が不安定となり、雷雨を観測しました。23 日は VIS が 3000m まで悪化し、最大風速 35kt の西の風、最大瞬間風速 47kt の西の風を観測しました。

24 日は気圧の傾きが大きい状態が続き、最大風速 31kt の西北西の風、最大瞬間風速 37kt の西北西の風を観測しました。

《気温》月平均気温は 9.1℃（平年 9.4℃、12 月の低い方から 6 位を更新）でした。日最高気温は、10 日が最も高く 14.8℃ を観測しました。日最高気温が低いのは 23 日で 5.8℃（12 月の日最高気温の低い方から 7 位を更新）でした。日最低気温は、21 日が最も低く 2.4℃ を観測しました。（第 1 図）。



第 1 図 2022 年 12 月の日別気温・降水量

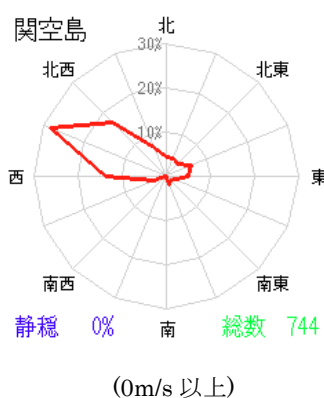


第 2 図 2022 年 12 月の日別風速

《降水量》月降水量は 26.5mm（平年 60.1mm、12 月の少ない方から 4 位を更新）でした。日降水量の最大は 17 日に 10.0mm を観測しました。1 時間降水量の最大は 22 日に 3.5mm を観測しました。10 分間降水量の最大は 22 日に 1.5mm を観測しました（第 1 図）。

《風》日最大風速が 15kt 以上の日数が 28 日、そのうち 20kt 以上の日数が 17 日でした。日最大風速の最大は 23 日の西の風 35kt、日最大瞬間風速の最大は 22 日の西の風 48kt（12 月の 7 位を更新）でした（第 2 図）。

《風配図》10 分間平均風向風速を 1 時間毎に風向及び風速別で集計し、各方位の頻度を表した図です。月全体では西北西の風が多くなっています（第 3 図）。風速階級別では、5m/s 以上（約 10kt 以上）は西北西、10m/s 以上（約 20kt 以上）は西北西の風を多く観測しています（第 4 図）。



第 3 図 12 月の風配図



第 4 図 12 月の風速階級別風配図



《極値・順位値の更新》12 月の極値と順位値の更新状況を第 1 表に示します。表において、橙色のセルが今月の順位値を更新した記録です。

第1表 関空島の12月の極値

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
月降水量の少ない方から (mm)	11.0 (2011/12)	18.0 (2005/12)	21.0 (2020/12)	26.5 (2022/12)	29.0 (2017/12)	34.5 (2008/12)	50.5 (2009/12)	55.5 (2021/12)	56.0 (2019/12)	61.5 (2018/12)
日最高気温の低い方から (℃)	4.2 (2005/12/22)	4.7 (2014/12/17)	5.0 (2005/12/18)	5.1 (2010/12/31)	5.4 (2010/12/25)	5.5 (2006/12/29)	5.8 (2022/12/23)	6.1 (2005/12/28)	6.2 (2014/12/18)	6.2 (2012/12/24)
月平均気温の低い方から (℃)	6.6 (2005/12)	7.4 (2012/12)	7.6 (2014/12)	7.9 (2017/12)	8.7 (2013/12)	9.1 (2022/12)	9.2 (2011/12)	9.5 (2009/12)	9.6 (2010/12)	9.7 (2006/12)
日最大瞬間風速・風向 (m/s)	29.8 西 (2010/12/28)	28.3 南南西 (2015/12/11)	27.3 西 (2010/12/3)	26.7 西 (2014/12/17)	25.7 西北西 (2021/12/17)	25.2 西北西 (2021/12/1)	24.7 西 (2022/12/22)	24.2 西 (2022/12/23)	23.7 西 (2020/12/30)	23.7 西北西 (2019/12/27)

統計期間：2003年12月から、ただし日最大瞬間風速風向は2009年12月から。

なお、本レポートの文中及び極値表に用いている値は、特に断りがない限りアメダスによる統計処理を行った資料に基づき作成したものです。

—— 事務局からのお知らせ ——

< 関空島ウェザーレポートについて >

「関空島ウェザーレポート」についてのご意見・ご要望は、担当（福田）のメールアドレス **h-fukuda@met.kishou.go.jp** まで、メールにてお願いします。

発行日：2023年1月15日
発行元：関西航空地方気象台
編 集：航空気象懇談会事務局

関空島 WEATHER REPORT で使用する航空気象に関する用語の解説

1 気象観測施設の配置とデータ利用について

気象観測施設は、関空島の A-RWY(3500m)と B-RWY(4000m) 周辺に配置した屋外観測装置と、当台気象観測室(航空庁舎ペントハウス)に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報(METAR 報、SPECI 報)で配信する。

また、日本時間の 23 時 00 分～翌日 05 時 59 分の間は、全要素とも自動観測・自動判別結果を用いた METAR/SPECI 報(以下「自動 METAR/SPECI 報」という。)を通報する。自動 METAR/SPECI 報で通報する視程や雲、現在天気は目視観測とは異なる特性・特徴を持っている。

航空観測気象報で通報する風は「06L」の観測値である。障害等で「06L」が使用できない時は「06R、24R、24L」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する。(例:WIND BY EQPT/06R)

2 本文中で使用する語句の定義等

VIS:全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程(卓越視程)を(m)で表す。なお、自動通報時間帯については、RWY06L の滑走路視距離観測装置で自動観測した値である。

CIG:雲量が 5/8 以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを(ft)で表す。

RVR:滑走路視距離観測装置で観測した滑走路視距離を(m)で表す。

風:RWY06L に設置した観測装置の値(関西国際空港の代表風)を、風向を真方位(°)で風速を(kt)で表す。

風配図は、RWY 06L の、正時から 1 時間毎の 10 分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。

Calm(静穏)は、10 分間平均風速の値が 0.4kt(0.2m/s)以下の場合をいう。

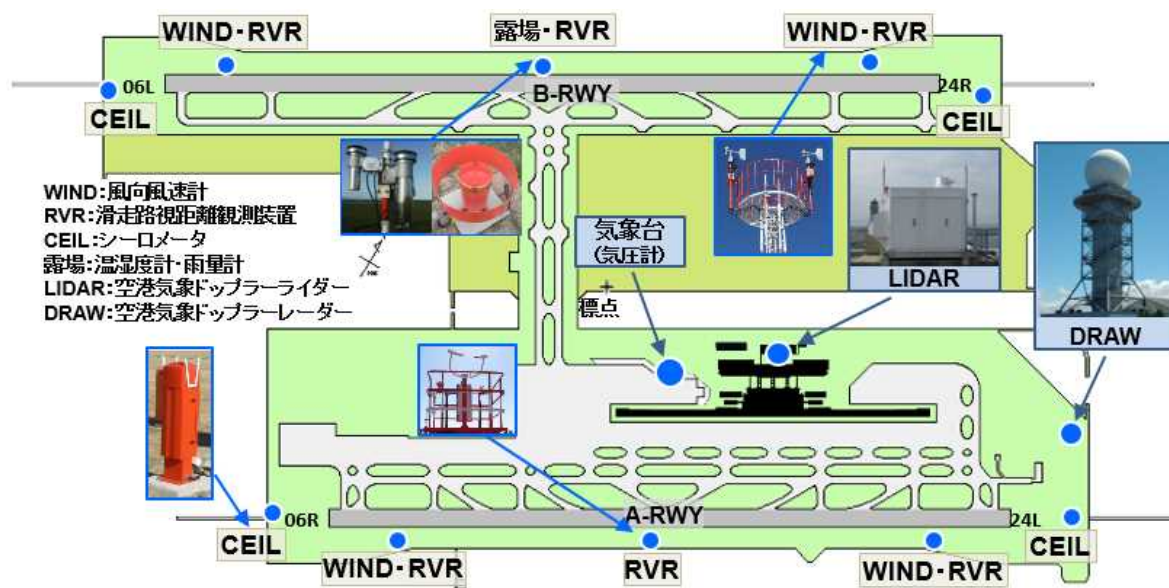
ガストは、平均風速を 10kt 以上上回る最大瞬間風速があった場合に報じられる。

ウィンドシアア:鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。ウィンドシアアのうち、観測された高度が 1600ft 以下(もしくは 1600ft をまたぐ高度)の場合は低層ウィンドシアアとする。

平年値:アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値を使用している。

関空島の統計期間は、2003-2020 年

(ただし、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風速は 2009 年から)。



関空島内の気象観測機器配置状況